

(様式第10)

関病発第21X01号  
令和3年10月5日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 関西医科大学  
理事長 山下 敏夫

関西医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和2年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒573-1010 大阪府枚方市新町2丁目5番1号
氏 名	学校法人 関西医科大学 理事長 山下 敏夫

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

関西医科大学附属病院
------------

3 所在の場所

〒573-1191 大阪府枚方市新町2丁目3番1号	電話(072) 804-0101
---------------------------	------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
内科と組み合わせた診療科名等	
① 呼吸器内科                      ② 消化器内科                      ③ 循環器内科                      ④ 腎臓内科	
5 神経内科                          ⑥ 血液内科                          ⑦ 内分泌内科                      ⑧ 代謝内科	
⑨ 感染症内科                      10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科                      ⑪ リウマチ科	
診療実績	
・アレルギー疾患内科またはアレルギー科の内容は呼吸器内科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科で診療している。	
・神経内科の診療内容は脳神経内科にて提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
外科と組み合わせた診療科名	
① 呼吸器外科            ② 消化器外科            ③ 乳腺外科            4 心臓外科 ⑤ 血管外科            ⑥ 心臓血管外科        7 内分泌外科        ⑧ 小児外科	
診療実績 内分泌外科の内容は、耳鼻咽喉科、泌尿器科で診療している。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科            ② 小児科            ③ 整形外科            ④ 脳神経外科            ⑤ 皮膚科 ⑥ 泌尿器科        ⑦ 産婦人科        8 産科            9 婦人科            ⑩ 眼科            ⑪ 耳鼻咽喉科 ⑫ 放射線科        13 放射線診断科        14 放射線治療科        ⑬ 麻酔科            ⑭ 救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 小児歯科            2 矯正歯科            ③ 口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 血液・腫瘍内科    2 肝臓内科            3 心療内科            4 糖尿病内科        5 肝臓外科 6 胆のう外科        7 膵臓外科            8 頭頸部外科        9 形成外科            10 リハビリテーション科 11 病理診断科        12 臨床検査科        13 脳神経内科        14                    15 16                    17                    18                    19                    20
---

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0床	0床	0床	0床	751床	751床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	386 人	130 人	417.2 人	看護補助者	174 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	6 人	0 人	6.0 人	理学療法士	26 人	臨床検査技師	77 人
薬 剤 師	56 人	5 人	58.6 人	作業療法士	8 人	検査衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0.0 人	視能訓練士	9 人	その他	0 人
助 産 師	55 人	1 人	55.9 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	834 人	50 人	867.2 人	臨床工学士	21 人	医療社会事業従事者	10 人
准看護師	0 人	0 人	0.0 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	25 人
歯科衛生士	11 人	0 人	11.0 人	歯科技工士	0 人	事 務 職 員	177 人
管理栄養士	6 人	7 人	11.3 人	診療放射線技師	48 人	その他の職員	0 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	37 人	眼 科 専 門 医	12 人
外 科 専 門 医	39 人	耳鼻咽喉科専門医	13 人
精 神 科 専 門 医	3 人	放射線科専門医	13 人
小 児 科 専 門 医	15 人	脳神経外科専門医	7 人
皮 膚 科 専 門 医	3 人	整形外科専門医	16 人
泌尿器科専門医	10 人	麻 酔 科 専 門 医	16 人
産 婦 人 科 専 門 医	14 人	救 急 科 専 門 医	13 人
		合 計	211 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 松田 公志 ) 任命年月日 令和3年4月1日

2006年1月1日～2010年3月31日 安全対策委員（セーフティマネージャー） 2020年4月1日～2021年3月31日 医療安全管理責任者 2021年4月1日～現在 医療安全管理センター 兼務
--

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	661.6人	1.5人	663.1人
1日当たり平均外来患者数	1,929.1人	49.2人	1,978.3人
1日当たり平均調剤数	975.5剤		
必要医師数	180.0人		
必要歯科医師数	4.0人		
必要薬剤師数	23.0人		
必要(准)看護師数	398.0人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	891.70 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)耐火建物	病床数	53床	心電計	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
			人工呼吸装置	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	心細動除去装置	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
			その他の救急蘇生装置	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	ペースメーカー	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積	151.50 m <sup>2</sup>	病床数	14床		
	[移動式の場合] 台数	台	病床数	床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積	53.00 m <sup>2</sup>				
	[共用室の場合] 共用する室名	病棟業務課				
化学検査室	405.30 m <sup>2</sup>	〃	(主な設備)	AUX5800, XE-2100, アーキテクト, アテリカ, CS-5100		
細菌検査室	112.90 m <sup>2</sup>	〃	(主な設備)	安全キャビネット, バクテアラート3D, BDフェニックス		
病理検査室	299.90 m <sup>2</sup>	〃	(主な設備)	ジェット印字機, スライド印字機, パラフィン浸透機, 免疫染色機		
病理解剖室	118.90 m <sup>2</sup>	〃	(主な設備)	パラフィン液透機, 包埋センター, ドラフトチャンバー		
研究室	8,193.84 m <sup>2</sup>	〃	(主な設備)	顕微鏡, 冷却遠心機, CO2インキュベーター		
講義室	363.40 m <sup>2</sup>	〃	室数	2室	収容定員	210人
図書室	1,135.16 m <sup>2</sup>	〃	室数	1室	蔵書数	52,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	78.30 %	逆紹介率	64.00 %
算出根拠	A：紹介患者の数	18,430 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	16,310 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,532 人	
	D：初診の患者の数	25,497 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
藤本 良知	枚方市医師会 名誉会長	○	地域医療に関する学識経験者	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
森田 眞照	市立ひらかた病院 顧問		病院機能に関する学識経験者	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
永井 仁美	茨木保健所 所長		公衆衛生に関する学識経験者	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
吉野 敬昌	枚方信用金庫 理事長		医療を受ける側の代表者	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
谷川 昇	関西医科大学医学部 放射線科学講座教授		医療に関する学識経験者	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	1
蔦 幸治	関西医科大学 臨床病理学講座教授		臨床病理に関する学識経験者	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	1
				<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
公表の方法	
本学ホームページにて公表	



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
<p>本手術は、2017年7月11日 先進医療Aに告知された術式であり、現在早期子宮体がんに対して保険診療として行っている腹腔鏡下子宮体がん根治術に腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術を追加するものである。この傍大動脈リンパ節郭清術は、現在保険診療として開腹術で行っている傍大動脈リンパ節郭清と同様の方法を腹腔鏡下で行うものである。具体的には、カメラを下腹部正中から上腹部の方向に向け、後腹膜を切開し、腹膜を腹壁側に吊り上げ又は排圧し空間を確保し、腹大動脈より下腸間膜動脈・腎動脈を確認した上で、腎動脈以下の傍大動脈リンパ節郭清術を行う。</p>			
医療技術名	内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
<p>根治的子宮癌手術は、比較的早期の子宮癌に対する最も一般的な治療法であるが、手術的には他の開放手術に比べて出血量が多く、また侵襲性の高い術式であった。1990年頃に腹腔鏡下手術の当該術式への適応が模索され、開腹手術に比し出血量が少ないこと、術後疼痛が軽微であることが多くの利点が提唱されてきたが、2次元視野での難易度の高い術式あることは否めない。手術支援ロボットであるda vinciは三次元視野下での手術操作を可能とするとともに手術野に挿入された鉗子の先端部が広い自由度を保持した関節機能を有する事により小骨盤腔という極めて狭小な手術野での鉗子先端部の自由な可動域を得ることにより、従来は難しいされた鉗子操作を容易に行えることが可能となり、気腹圧による静脈出血の制御という腹腔鏡下手術の利点と手術操作の可動域の拡大を兼ね備えた画期的手術手技となり得ることが明らかになってきた。加えるに10倍の拡大視野下での手術操作により、神経、血管等の確認を容易とし、確実な尿管の剥離、より確実な子宮動脈の剥離結紮を可能にするなど従来の開腹手術では期待できなかった多くの利点がある手術である。</p>			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	9	56	ベーチェット病	86
2	筋萎縮性側索硬化症	31	57	特発性拡張型心筋症	60
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	50
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	23	60	再生不良性貧血	50
6	パーキンソン病	366	61	自己免疫性溶血性貧血	14
7	大脳皮質基底核変性症	9	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	276
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	2
10	シャルコー・マリー・トゥース病	5	65	原発性免疫不全症候群	1
11	重症筋無力症	151	66	IgA腎症	129
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	43
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	46	68	黄色靱帯骨化症	47
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	35	69	後縦靱帯骨化症	166
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	2
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	77
17	多系統萎縮症	25	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	66	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	3	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	4	75	クッシング病	3
21	ミトコンドリア病	2	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	49	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	4
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	36	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	6	83	アジソン病	4
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	158
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	14
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	5
32	自己食空胞性ミオパチー	1	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	7
34	神経線維腫症	51	89	リンパ管筋腫症	5
35	天疱瘡	28	90	網膜色素変性症	95
36	表皮水疱症	0	91	パッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	2	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	119
39	中毒性表皮壊死症	2	94	原発性硬化性胆管炎	11
40	高安動脈炎	9	95	自己免疫性肝炎	127
41	巨細胞性動脈炎	9	96	クローン病	137
42	結節性多発動脈炎	16	97	潰瘍性大腸炎	308
43	顕微鏡的多発血管炎	30	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	11	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	31	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	1
46	悪性関節リウマチ	15	101	腸管神経節細胞減少症	1
47	バージャー病	9	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	GFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	282	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	129	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	98	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	47	107	全身型若年性特発性関節炎	3
53	シェーグレン症候群	234	108	TNF受容体関連周期性症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

54	成人スチル病	21	109	非典型溶血性尿毒症症候群	2
55	再発性多発軟骨炎	11	110	ブラウ症候群	1
	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	3	161	家族性良性慢性天疱瘡	4
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2
113	筋ジストロフィー	15	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	3
115	遺伝性周期性四肢麻痺	2	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	14	167	マルファン症候群	6
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	3
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	2
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	1	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	2
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	1
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	1
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスモンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	1
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	8	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	7
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	1
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスマッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	3
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	4	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	7	208	修正大血管転位症	1

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数	
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	3
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	16
	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	2	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	3	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	33	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	6	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	3	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	11	266	家族性地中海熱	5
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	9	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	2	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	5
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	9	271	強直性脊椎炎	21
224	紫斑病性腎炎	17	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	9	274	骨形成不全症	3
227	オスラー病	4	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	8	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	2	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	3
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	23
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	2
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	12
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	57
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	23
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	2
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数	
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	2
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	161
	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β-ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャスルマン病	0
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・入退院支援加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・認知症ケア加算
・特定機能病院入院基本料	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・救急医療管理加算	・精神疾患診療体制加算
・超急性期脳卒中加算	・排尿自立支援加算
・診療録管理体制加算1	・地域医療体制確保加算
・医師事務作業補助体制加算1	・救命救急入院料1
・急性期看護補助体制加算	・救命救急入院料4
・看護職員夜間配置加算	・特定集中治療室管理料2
・療養環境加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・重症者等療養環境特別加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・無菌治療室管理加算1	・小児入院医療管理料1
・無菌治療室管理加算2	
・緩和ケア診療加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・呼吸ケアチーム加算	
・後発医薬品使用体制加算1	
・病棟薬剤業務実施加算1	
・病棟薬剤業務実施加算2	
・データ提出加算	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・糖尿病合併症管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・遺伝学的検査
・がん患者指導管理料イ	・骨髄微小残存病変量測定
・がん患者指導管理料ロ	・BRCA1/2遺伝子検査
・がん患者指導管理料ニ	・がんゲノムプロファイリング検査
・外来緩和ケア管理料	・先天性代謝異常症検査
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・糖尿病透析予防指導管理料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・小児運動器疾患指導管理料	・検体検査管理加算(Ⅰ)
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・婦人科特定疾患治療管理料	・国際標準検査管理加算
・腎代替療法指導管理料	・遺伝カウンセリング加算
・外来放射線照射診療料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・ニコチン依存症管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん治療連携計画策定料	・胎児心エコー法
・外来排尿自立指導料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ヘッドアップティルト試験
・薬剤管理指導料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・地域連携診療計画加算	・脳波検査判断料1
・医療機器安全管理料1	・神経学的検査
・医療機器安全管理料2	・補聴器適合検査
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	・ロービジョン検査判断料
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算	・コンタクトレンズ検査料1

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・内服・点滴誘発試験	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・CT透視下気管支鏡検査加算	・硬膜外自家血注入
・画像診断管理加算3	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・ポジトロン断層撮影	・エタノールの局所注入(副甲状腺)
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・人工腎臓
・CT撮影及びMRI撮影	・導入期加算1
・冠動脈CT撮影加算	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・外傷全身CT加算	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・心臓MRI撮影加算	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・乳房MRI撮影加算	・手術用顕微鏡加算
・頭部MRI撮影加算	・CAD/CAM冠
・全身MRI撮影加算	・センチネルリンパ節加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・皮膚移植術(死体)
・外来化学療法加算1	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・無菌製剤処理料	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・運動器リハビリテーション料(I)	・椎間板内酵素注入療法
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・がん患者リハビリテーション料	・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
・歯科口腔リハビリテーション料2	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・認知療法・認知行動療法1	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1	・羊膜移植術
・レーザー機器加算	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・網膜再建術	・経皮的下肢動脈形成術
・人工中耳植込術	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)	・体外衝撃波胆石破砕術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・腹腔鏡下肝切除術
・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・生体部分肝移植術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・体外衝撃波膵石破砕術
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・胸腔鏡下弁形成術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経カテーテル大動脈弁置換術	・同種死体腎移植術
・胸腔鏡下弁置換術	・生体腎移植術
・経皮的中心隔心筋焼灼術	・膀胱水圧拡張術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	・定位放射線治療
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・無心体双胎焼灼術	・画像誘導密封小線源治療加算
・胎児輸血術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1	・病理診断管理加算2
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	
・輸血管理料 I	
・輸血適正使用加算	
・自己生体組織接着剤作成術	
・同種クリオプレシピテート作製術	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・歯根端切除手術の注3	
・麻酔管理料(I)	
・麻酔管理料(II)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・1回線量増加加算	
・強度変調放射線治療(IMRT)	
・画像誘導放射線治療(IGRT)	



## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
脳腫瘍の再発予知と予防薬の開発	浅井 昭雄	脳神経外科学講座	7,930,000	補委	文部科学省・日本学術振興会 科研費
片麻痺歩行再建の治療指針を提供するAIシステムの基盤形成	長谷 公隆	リハビリテーション医学講座	6,760,000	補委	文部科学省・日本学術振興会 科研費
蛋白付着抑制コートはバイオフィルム形成を阻止しカテーテルへの細菌付着を妨げるか？	狩谷 秀治	放射線科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
がん患者の不眠障害に対する完全在宅型心拍変動バイオフィードバックシステムの開発	蓮尾 英明	心療内科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
食後代謝異常が造血幹細胞老化を誘導する際のヒストン脱メチル化酵素の役割	岩崎 真佳	内科学第二講座	2,080,000	補委	日本学術振興会 科研費
深層学習による冠動脈粥腫自動診断システムの開発とその臨床応用に関する研究	藤井 健一	内科学第二講座	2,470,000	補委	日本学術振興会 科研費
肝細胞癌に対するレンバチニブ内包スマートメッシュを用いた新規治療デバイスの開発	松井 康輔	外科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
膵癌細胞におけるadipophilinの発現とグルタミン代謝メカニズムの解明	山木 壮	外科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
脳死ラットにおける新規心不全治療薬による心筋保護効果の検討	上林 卓彦	麻酔科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
妊娠高血圧と中枢神経性調節:機能的磁気共鳴イメージングを用いた脳機能的結合性解析	中畑 克俊	麻酔科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
iNOSセンスオリゴヌクレオチドを中心とした敗血症治療に対する基盤構築	中竹 利知	外科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
病態解明と創薬を目標とした妊娠高血圧症候群患者の血小板中microRNA解析	金沢 路子	麻酔科学講座	1,820,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計  
12件

プレシジョン・メディシンに向けた悪性脳腫瘍の治療パッケージの創製	埜中 正博	脳神経外科学講座	2,470,000	補委	日本学術振興会 科研費
遠隔転移の予防に向けた新規免疫調節因子の発現メカニズムの解明	岩田 亮一	脳神経外科学講座	2,730,000	補委	日本学術振興会 科研費
次世代シーケンサーによる椎間板・椎体および脊椎インプラントに存在する細菌叢の探究	足立 崇	整形外科科学講座	2,600,000	補委	日本学術振興会 科研費
乳幼児の反復性尿路感染症における腸内細菌層是正による新規予防法の確立	木全 貴久	小児科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
Augmented Realityを利用した、迫体験型手術教育法の開発と評価	木下 秀文	腎泌尿器外科学講座	2,210,000	補委	日本学術振興会 科研費
免疫微小環境リモデリングに着目した尿路上皮癌新規複合免疫療法の開発	齊藤 亮一	腎泌尿器外科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
ミトコンドリア代謝を指標とした、新規ヒト精子品質評価技術の確立と品質維持への試み	谷口 久哲	腎泌尿器外科学講座	780,000	補委	日本学術振興会 科研費
内分泌・低酸素環境における子宮内膜分化機構の解明	岡田 英孝	産科学・婦人科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
子宮内膜免疫寛容の転写制御機構を解明する	村田 紘未	産科学・婦人科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
胸腺移植を用いた細胞性免疫機能改変による老人性難聴予防とヒトへの応用	杉田 侑己	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
血管リモデリングマウスを用いた血管スパズムモデルの開発と新規スパズム抑制薬の検討	松岡 祐貴	形成外科学講座	2,600,000	補委	日本学術振興会 科研費
COVID-19における急激な病態悪化メカニズムの解明および予防ターゲットの提示	伊藤 明日香	麻酔科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
アルツハイマー病発症リスクを層別化する中年期脳微細血管障害スコアモデルの構築	薬師寺 祐介	神経内科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計  
13件

コロナ禍による小児の貧困・体格・生活スタイルの変容	高屋 淳二	小児科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
癒着制御剤を内包したスマートシートによる術後癒着予防効果の検討	小坂 久	外科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
腸内細菌による大腸腫瘍初期病変の異なる分子サブタイプ誘導に関する検討	田原 智満	内科学第三講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
光環境サイクルという視点からの、新たな心身症治療法の可能性	福永 幹彦	心療内科学講座	650,000	補委	日本学術振興会 科研費
口輪筋と顔面表情筋群の複合的メカニズムの解明と正常な表情獲得のための基盤の検討	益岡 弘	形成外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
サイトカイン遺伝子の一塩基多型解析とEVを用いた難治性ITPの早期診断法の開発	野村 昌作	内科学第一講座	780,000	補委	日本学術振興会 科研費
好酸球ペルオキシダーゼ抗体の存在から難治性好酸球性気道炎症の新たな治療戦略を探る	小林 良樹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
麻酔－ECT時間がけいれん発作の質および臨床的有効性・忍容性に及ぼす影響について	奥川 学	精神神経科学講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
腸管免疫に影響を与える腸内細菌叢に着目した微小変化型ネフローゼ症候群の病因解明	辻 章志	小児科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
治療最適化を目指した潰瘍性大腸炎患者の腸内細菌・口腔内細菌叢の解析	長沼 誠	内科学第三講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
セマフォリン4Aが移植後免疫応答に及ぼす影響の解明と新規急性GVHD制御法の開発	佐竹 敦志	内科学第一講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
網羅的遺伝子解析による大動脈疾患へのプレシジョンメディシンの創出	岡田 隆之	心臓血管外科学講座	780,000	補委	日本学術振興会 科研費
敗血症病態における血小板数減少と細胞死のmicroRNA網羅的解析による機序解明	竹下 淳	麻酔科学講座	260,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計  
13件

血小板と白血球の相互作用による敗血症増悪病態におけるmicroRNAの役割の解明	影山 京子	麻酔科学講座	260,000	補委	日本学術振興会 科研費
Augmented realityを利用した迫体験型内視鏡手術教育システムの開発	松田 公志	腎泌尿器外科学講座	520,000	補委	日本学術振興会 科研費
酸素・エネルギー代謝解析によるHIF-1を機軸とした子宮内膜炎症応答の解明	中尾 朋子	産科学・婦人科学講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
好酸球性気道炎症における選択的アセチルコリン受容体の機序解明と新しい治療薬の開発	神田 晃	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
Tリンパ球分画接種による老人性難聴の予防法および予防機序の解明	岩井 大	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
薬剤関連顎骨壊死の発症原因解明と発症予防法確立に向けた多施設共同前向き研究	兒島 由佳	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
医療面接における共感場面の社会的・生理的特徴からの客観的解明	阿部 哲也	心療内科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
浸潤性膀胱癌における新規治療ターゲットとしての一次繊毛	吉田 崇	腎泌尿器外科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
核膜構造・機能からみるヒト遺伝性疾患の解明	塚口 裕康	内科学第二講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
胸腺癌特異マーカーPRAMEの生物学的意義の解明と新規治療戦略への展開	谷口 洋平	呼吸器外科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
肺癌 invasive frontの空間的病理解析による浸潤/免疫抑制機構の解明	齊藤 朋人	呼吸器外科学講座	2,210,000	補委	日本学術振興会 科研費
敗血症病態時の好中球細胞外トラップ産生能とmicroRNAによる制御の解明	中嶋 康文	麻酔科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
麻酔中の脳波による鎮痛モニタリング法の開発	萩平 哲	麻酔科学講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計  
13件

敗血症における赤血球表面上の補体沈着と侵襲度の評価	室谷 卓	救急医学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
腸管循環系からみた敗血症ショックの新しい循環管理法の開発に関する研究	鉾方 安行	救急医学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
内向き整流Kチャネルを基軸としたグリオーマ浸潤メカニズムの解明	吉村 晋一	脳神経外科学講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
超小型シークエンサーを用いた周術期感染症のオンサイト迅速モニタリング技術の開発	串田 剛俊	整形外科科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
降下性縦隔炎の治療法構築と地域包括医療計画への提言:医療ビッグデータを用いた解析	日高 浩史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
機能性食品(AHCC)による膀胱癌治療成績改善を検証する 二重盲検無作為化比較試験	里井 壯平	外科学講座	390,000	補委	日本学術振興会 科研費
HELLP症候群における補体活性化と血管新生関連因子についての研究	森川 守	産科学・婦人科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
悪性腫瘍に対する新たな放射線塞栓療法の開発	河野 由美子	放射線科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
川崎病の罹患因子としての腸内細菌叢の役割の検討	赤川 翔平	小児科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
IFN $\beta$ -1 $\alpha$ シグナルと低酸素応答系のクロストークによる肺血管内皮バリア機能制御	角 千里	麻酔科学講座	3,250,000	補委	日本学術振興会 科研費
放射線治療計画の品質を高める包括的研究	姉帯 優介	放射線科学講座	780,000	補委	日本学術振興会 科研費
カテーテルにコーティングされたPMEAのバイオフィルム形成抑制効果の証明	小野 泰之	放射線科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
高悪性度腎細胞癌の治療薬シーズの探索	大江 知里	病理学講座	260,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計  
13件

強力に複数の炎症性サイトカインを抑制する新薬・DHMEQのSLEに対する治療開発	山内 壮作	小児科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
非アルコール性脂肪性肝炎の線維化進行と肝発癌を予測する新規バイオマーカーの開発	山口 隆志	内科学第三講座	520,000	補委	日本学術振興会 科研費
自己免疫性膵炎の発症病態や制御機構に関わるIL-35の働き	田中 敏宏	内科学第三講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
レナリドミドの移植片対宿主病に及ぼす影響の解明ー制御性T細胞を中心としてー	吉村 英晃	内科学第一講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
活性化組織好酸球に発現するCD69の機能的役割の解明	尹 泰貴	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
弾性線維欠損マウス及び網膜光凝固術を用いたポリープ状脈絡膜血管症モデルの作成	盛 秀嗣	眼科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
眼内虚血時における病的血管新生を防ぎつつ、生理的血管新生を誘導する方法を検討する	嶋 千絵子	眼科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
淡明細胞型腎細胞癌の個別化医療を目的としたバイオマーカーの同定	大杉 治之	腎泌尿器外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
大量ナノバブル存在下で増強したキャビテーションによる経皮吸収促進の評価	上野 裕	放射線科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
深層学習による患者個別線量分布推定に基づいた自動放射線治療計画システムの構築	小池 優平	放射線科学講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
酸素ホメオスタシス制御を切り口とした麻酔に伴う免疫応答変容の分子基盤解明	富山 尚	内科学第三講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
病変局所へ浸潤する好塩基球に注目した特発性蕁麻疹の病態検討	岸本 泉	皮膚科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
超小型シークエンサーを用いた外科周術期管理におけるオンサイト迅速細菌同定法の確立	小林 壽範	外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
敗血症時の免疫抑制病態と骨髄由来抑制細胞由来microRNAによる抑制機構の役割	大平 早也佳	麻酔科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計  
14件

救急現場オンサイトでの迅速感染症診断を可能にする超小型シーケンスシステムの確立	中村 文子	救急医学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
ストレスによる行動変容に対するドーパミンとセロトニンの役割を明らかにする研究	李 一	脳神経外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
甲状腺癌に対するAt-211を用いた標的RI治療と分子標的薬の併用療法の確立	福井 研太	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
鼻腔産生一酸化窒素から睡眠時無呼吸症の病態を探る	河内 理咲	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
好酸球性副鼻腔炎の克服を目指した新規融合タンパク質の鼻腔組織への有効性	清水 皆貴	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
網膜静脈閉塞症における側副血行路形成予測方法の開発	大庭 慎平	眼科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
ヒトiPS細胞を用いた唾液腺組織の再構築と移植による唾液腺機能回復	澤田 俊輔	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
薬剤関連顎壊死の発症原因解明と発症予防法確立に向けた多施設共同前向き研究	切東 真子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
介護保険診療における治療戦略AIの開発	長谷 公隆	リハビリテーション医学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
グルタミン代謝がアスピリンの抗腫瘍効果に及ぼす影響	朴 将源	がんセンター	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
治療最適化を目指した潰瘍性大腸炎患者の腸内細菌・口腔内細菌叢の解析	長沼 誠	内科学第三講座	1,950,000	補委	日本学術振興会 科研費
介護保険診療における治療戦略AIの開発	長谷 公隆	リハビリテーション医学講座	4,160,000	補委	日本学術振興会 科研費
グルタミン代謝がアスピリンの抗腫瘍効果に及ぼす影響	朴 将源	がんセンター	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計  
13件

小児期・移行期を含む包括的対応を要する希少難治性肝胆膵疾患の調査研究	濱田 吉則	外科学	150,000	補委	厚生労働省
神経変性疾患領域の基盤的調査研究	埜中 正博	脳神経外科学	750,000	補委	厚生労働省
患者・家族の意思決定能力に応じた適切な意思決定支援の実践に資する簡便で効果的な支援プログラムの開発に関する研究	海堀 昌樹	外科学	400,000	補委	厚生労働省
向精神薬の適切な継続・減量・中止等の精神科薬物療法の出口戦略の実践に資する研究	加藤 正樹	精神神経科学	534,000	補委	厚生労働省
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業	水野 泰之	心療内科学	1,000,000	補委	厚生労働省
エビデンスに基づいた難治性炎症性腸疾患に対する治療ポジショニングの構築	長沼 誠	内科学第三	13,585,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
自然免疫制御による全身性エリテマトーデス治療薬の創製	伊藤 量基	内科学第一	3,250,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
病理学的Stage II/III で“vulnerable”な80歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量したS-1 術後補助化学療法に関するランダム化比較第III 相試験	井上 健太郎	外科学	260,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第III相試験	井上 健太郎	外科学	130,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
革新的抗がんウイルス療法の実用化臨床研究	海堀 昌樹	外科学	1,300,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者に対するG-CSF動員自家末梢血CD34陽性細胞の経肝動脈投与に関する臨床研究	海堀 昌樹	外科学	3,335,540	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
がん治療中のせん妄の発症予防を目指した多職種せん妄プログラムの開発	海堀 昌樹	外科学	1,040,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
先天性巨大色素性母斑を母地とした悪性黒色腫に対する予防的低侵襲治療方法の開発～高圧処理新規医療機器の研究開発	覚道 奈津子	形成外科学	650,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)

小計  
13件

精神疾患レジストリの構築・統合により新たな診断・治療法を開発するための研究	加藤 正樹	精神神経科学	1,950,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
ロボット支援手術における熟練技術追体験型学習システム	木下 秀文	腎泌尿器外科学	650,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
高齢者非小細胞肺癌患者に対する抗がん薬のPK/PDに基づく個別化医療研究	倉田 宝保	内科学第一	650,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
EGFR遺伝子変異陽性進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するゲフィチニブまたはオシメルチニブ単剤療法とゲフィチニブまたはオシメルチニブにシスプラチン+ペムトレキセドを途中挿入する治療とのランダム化比較試験	倉田 宝保	内科学第一	390,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
TCR多様性に基づく免疫チェックポイント阻害薬の治療効果予測に関する研究	倉田 宝保	内科学第一	390,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
直腸癌局所再発に対する標準治療確立のための研究開発	関本 貢嗣	外科学	520,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
未来のがん診療に資する革新的技術を導入したバイオマーカー測定の有用性を評価する大規模前向き観察研究	蔦 幸治	臨床病理学	130,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
オピオイド不応の神経障害性疼痛に対するプレガバリンとデュロキセチンの国際共同ランダム化比較試験	蓮尾 英明	心療内科学	409,474	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
下肢装具から脱却するためのリハビリテーションを支援する歩行介入エンジンの研究開発	長谷 公隆	リハビリテーション医学	18,232,500	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
急性骨髄性白血病に対する治療用がんペプチドワクチン「DSP-7888」のPhase2医師主導治験	佐竹 敦志	内科学第一	2,000,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
がん患者における患者報告アウトカム尺度開発に関する研究	木川 雄一郎	外科学	715,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
脳出血超急性期患者への遺伝子組換え活性型第VII因子投与の有効性と安全性を検証する研究者主導国際臨床試験	薬師寺 祐介	神経内科学	500,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
運動機能障害者の就労・教育を支援するジェスチャインタフェースの社会実装	阿部 哲也	心療内科学	260,000	補委	科学技術振興機構 (JST)
QOL計測とハートフルネス実践による食体験共有システム	蓮尾 英明	心療内科学	2,304,900	補委	科学技術振興機構 (JST)
脳機能補完による高齢者・障がい者の機能回復支援技術の研究開発	長谷公隆	リハビリテーション医学	5,000,000	補委	NICT

小計  
14件

放射線画像データおよび医師所見による骨関連事象事前予測のためのAIシステムの開発(A145)	中村 聡明	放射線科学	1,130,000	補 委	大阪大(AMED補助金)	
心房細動を伴う脳梗塞における適切な直接経口抗凝固薬開始時期の探求	薬師寺 祐介	神経内科学	1,000,000	補 委	国立循環器病研究センター	
小児の食物アレルギーと腸内細菌叢の関連	赤川 翔平	小児科学講座	2,000,000	補 委	公益財団法人ニッポンハム食の未来財団	
脳アミロイドアンギオパチーにおけるNRG1シグナルの解析	村上 綾	神経内科学講座	400,000	補 委	日本私立学校振興・共済事業団	
膵癌における胆汁中に含有される細胞外小胞によるバイオマーカーの開発	中丸 光	内科学第三講座	300,000	補 委	公益財団法人大阪対がん協会	
健常人のアルツハイマー病発症リスクに対する脳小血管病負債と喫煙の相乗効果の検証:the Kashima scan	薬師寺 祐介	神経内科学講座	2,000,000	補 委	公益財団法人喫煙科学研究財団	
妊娠成立に向けたヒト卵巣機能に及ぼす喫煙の影響	岡田 英孝	産科学・婦人科学講座	2,000,000	補 委	公益財団法人喫煙科学研究財団	小計 8件

合計 126 件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2. 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題 名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Konishi A, Nakaya A, Ishii K, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Six cases of autoimmune acquired coagulation factor VIII deficiency: Single center experience in Japan.	Hematol Rep. 12(2):8525 2020/11	Original Article
2	Sawai Y, Yamanaka Y, Nomura S.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Clinical Significance of Factor XIII Activity and Monocyte-Derived Microparticles in Cancer Patients	Vascular health and risk management 16:103-110 2020/04	Original Article
3	Miyashita N, Higa F, Aoki Y, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Distribution of Legionella species and serogroups in patients with culture-confirmed Legionella pneumonia.	Journal of Infection and Chemotherapy 26(5):411-417 2020/05	Original Article
4	Miyashita N, Ogata M, Fukuda N, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Detection of Mycoplasma pneumoniae using a highly sensitive rapid diagnostic method with silver amplification technology	Journal of infection and chemotherapy 26(6):527-530 2020/06	Original Article
5	Phan V, Ito T, Inaba M, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Immunomodulatory drugs suppress Th1-inducing ability of dendritic cells but enhance Th2-mediated allergic responses	Blood advances 4(15):3572-3585 2020/08	Original Article
6	Nomura S, Taniura T, Ito T.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Extracellular Vesicle-Related Thrombosis in Viral Infection	International journal of general medicine 13:559-568 2020/08	Original Article
7	Nakaya A, Kohara T, Shibayama H, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Retrospective multi-center study of Adolescent and Young Adult (AYA) Multiple Myeloma in Kansai Myeloma Forum registry	International journal of hematology 112(4):435-438 2020/10	Original Article
8	Shigesaka M, Ito T, Inaba M, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Mycophenolic acid, the active form of mycophenolate mofetil, interferes with IRF7 nuclear translocation and type I IFN production by plasmacytoid dendritic cells.	Arthritis research & therapy 22(1):264 2020/11	Original Article
9	Nakaya A, Tanaka H, Yagi H, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Retrospective analysis of plasmacytoma in Kansai Myeloma Forum Registry	International journal of hematology 112(5):666-673 2020/11	Original Article
10	Satake A, Konishi A, Azuma Y, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Clinical efficacy of mogamulizumab for relapsed/refractory aggressive adult T-cell leukemia/lymphoma: A retrospective analysis	European journal of haematology 105(6):704-711 2020/12	Original Article
11	Nakanishi T, Ito T, Fujita S, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Refractory Chronic Lymphocytic Leukemia with Central Nervous System Involvement: A Case Report with Literature Review	Journal of Blood Medicine 11:487-502 2020/12	Case Report
12	Tsujimoto S, Ozaki Y, Ito T, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Usefulness of Cytokine Gene Polymorphisms for the Therapeutic Choice in Japanese Patients with Rheumatoid Arthritis	International journal of general medicine 14:131-139 2021/01	Original Article
13	Suwa Y, Miyasaka Y, Taniguchi N, et al.	循環器内分泌代謝内科	Predictors of in-hospital mortality in patients with infective endocarditis	Acta cardiologica 26(5):1-8 2020/05	Original Article
14	Shibutani H, Fujii K, Matsumura K, et al.	循環器内分泌代謝内科	Differential influence of lesion length on fractional flow reserve in intermediate coronary lesions between each coronary artery.	Catheterization and cardiovascular interventions 95(6):E168-E174 2020/05	Original Article
15	Taniguchi N, Miyasaka Y, Suwa Y, et al.	循環器内分泌代謝内科	Heart Failure in Atrial Fibrillation - An Update on Clinical and Echocardiographic Implications	Circulation journal 84(8):1212-1217 2020/07	Review
16	Fujii K, Otsuji S, Yamamoto W, et al.	循環器内分泌代謝内科	Impact of optical coherence tomography-derived neointimal tissue morphology on development of very late in-stent restenosis.	Catheter Cardiovasc Interv. 96(4):E398-E405 2020/10	Original Article
17	Taniguchi N, Hosono M, Kuwauchi S, et al.	循環器内分泌代謝内科	Trunk Muscle Cross-Sectional Area as a Predictive Factor for Length of Postoperative Hospitalization After Surgical Aortic Valve Replacement	Annals of thoracic and cardiovascular surgery 26(3):151-157 2020/06	Original Article
18	Takehana K.	循環器内分泌代謝内科	Takotsubo Cardiomyopathy: What Should Myocardial Perfusion Imaging Reveal	J Nucl Cardiol 28:doi:10.1007/s12350-020-02435-3 2021/01	Original Article
19	Hashimoto K, Fujii K, Shibutani H, et al.	循環器内分泌代謝内科	Prediction of optimal debulking segments before rotational atherectomy based on pre-procedural intravascular ultrasound findings	The international journal of cardiovascular imaging 37(3):803-812 2021/03	Original Article
20	Yamashiki N, Haga H, Ueda Y, et al.	消化器肝臓内科	Use of Nakanuma staging and cytokeratin 7 staining for diagnosing recurrent primary biliary cholangitis after living-donor liver transplantation	Hepatology research 50(4):478-487 2020/04	Original Article

小計  
20件

21	Naganuma M, Yokoyama Y, Motoya S, et al.	消化器肝臓内科	Efficacy of apheresis as maintenance therapy for patients with ulcerative colitis in an open-label prospective multicenter randomised controlled trial	Journal of gastroenterology 55(4):390-400 2020/04	Others
22	Fukuda T, Naganuma M, Takabayashi K, et al.	消化器肝臓内科	Mucosal concentrations of N-acetyl-5-aminosalicylic acid related to endoscopic activity in ulcerative colitis patients with mesalamine	Journal of gastroenterology and hepatology 35(11):1878-1885 2020/04	Others
23	Nakamaru K, Tomiyama T, Kobayashi S, et al.	消化器肝臓内科	Extracellular vesicles microRNA analysis in type 1 autoimmune pancreatitis: Increased expression of microRNA-21	Pancreatology 20(3):318-324 2020/04	Original Article
24	Nakamura T, Satoh-Nakamura T, Nakajima A, et al.	消化器肝臓内科	Impaired expression of innate immunity-related genes in IgG4-related disease (IgG4-RD): A possible mechanism in the pathogenesis of IgG4-RD.	Modern rheumatology 30(3):551-557 2020/05	Original Article
25	Ikeura T, Hori Y, Mitsuyama T, et al.	消化器肝臓内科	Effectiveness of Photodynamic Screening Using 5-Aminolevulinic Acid for the Diagnosis of Pancreatic Cancer	Anticancer research 40(6):3571-3577 2020/06	Original Article
26	Ito T, Ikeura T, Tanaka T, et al.	消化器肝臓内科	Magnetic resonance cholangiopancreatography findings in early chronic pancreatitis diagnosed according to the Japanese Diagnostic Criteria	Pancreatology 20(4):596-601 2020/06	Original Article
27	Ito T, Tanaka T, Nakamaru K, et al.	消化器肝臓内科	Interleukin-35 promotes the differentiation of regulatory T cells and suppresses Th2 response in IgG4-related type 1 autoimmune pancreatitis	Journal of gastroenterology 55(8):789-799 2020/08	Original Article
28	Takano H, Shibata T, Nakamura M, et al.	消化器肝臓内科	Effect of DNMT3A polymorphisms on CpG island hypermethylation in gastric mucosa	BMC medical genetics 21(1):205 2020/10	Original Article
29	Sakurai N, Shibata T, Nakamura M, et al.	消化器肝臓内科	Influence of MIF polymorphisms on CpG island hypermethylation of CDKN2A in the patients with ulcerative colitis	BMC medical genetics 21(1):201 2020/10	Original Article
30	Mitsuyama T, Shimatani M, Naganuma M	消化器肝臓内科	Internal biliary drainage using double-balloon endoscopy in a patient with complete obstruction of the hepaticojejunostomy site	Digestive endoscopy (33):e10-e11 2020/11	Case Report
31	Naganuma M	消化器肝臓内科	Solving the questions regarding 5-aminosalicylate formulation in the treatment of ulcerative colitis.	Journal of gastroenterology 55(11):1013-1022 2020/11	Review
32	Yamao K, Takenaka M, Ogura T, et al.	消化器肝臓内科	Utility and Safety of a Novel Fully Covered Metal Stent in Unresectable Distal Malignant Biliary Obstruction	Digestive diseases and sciences 65(12):3702-3709 2020/12	Original Article
33	Takaoka M, Shimatani M, Ikeura T, et al.	消化器肝臓内科	Usefulness of half-covered metallic stent placement in preventing acute cholecystitis complication in pancreatic cancer-induced distal biliary stricture.	JGH Open 4(6):1140-1145 2020/12	Original Article
34	Hori Y, Ikeura T, Yamaguchi T, et al.	消化器肝臓内科	Role of phosphorylated Smad3 signal components in intraductal papillary mucinous neoplasm of pancreas	Hepatobiliary & pancreatic diseases international : HBPD INT 19(6):581-589 2020/06	Original Article
35	Tokuwara M, Shimatani M, Mitsuyama T, et al.	消化器肝臓内科	Evaluation of complications after endoscopic retrograde cholangiopancreatography using a short type double balloon endoscope in patients with altered gastrointestinal anatomy: a single-center retrospective study of 1,576 procedures.	Journal of gastroenterology and hepatology 35(8):1387-1395 2020/08	Original Article
36	Takaoka M, Shimatani M, Takayama, et al.	消化器肝臓内科	Development of Severe Acute Pancreatitis Following Uncovered Metallic Stent Placement: A Rare Case Report	Internal Medicine 60:1703-1707 2021/01	Case Report
37	Naganauma M, Kanai T	消化器肝臓内科	Reply	Clinical gastroenterology and hepatology 19(1):209-210 2021/01	Others
38	Takabayashi K, Hosoe N, Kato M, et al.	消化器肝臓内科	Significance of endoscopic deep small bowel evaluation using balloon-assisted enteroscopy for Crohn's disease in clinical remission	Journal of gastroenterology 56(1):25-33 2021/01	Others
39	Tanimura Y, Fukui T, Horitani S, et al.	消化器肝臓内科	Long-term model of colitis-associated colorectal cancer suggests tumor spread mechanism and nature of cancer stem cells.	Oncol Lett. 21(1):7 2021/01	Original Article
40	Hiraide T, Teratani T, Umemura S, et al.	消化器肝臓内科	Pulmonary Arterial Hypertension Caused by AhR Signal Activation Protecting against Colitis	American journal of respiratory and critical care medicine 203(3):385-388 2021/02	Others

小計  
20件

41	Ito T, Shimatani M, Naganuma M.	消化器肝臓内科	Endoscopic retrieval of a migrated biliary stent into intrahepatic bile duct by using fine-gauge biliary balloon dilation catheter	Digestive endoscopy 33(3):e39-e40 2021/03	Original Article
42	Umehara H, Okazaki K, Kawa S, et al.	消化器肝臓内科	The 2020 revised comprehensive diagnostic (RCD) criteria for IgG4-RD	Modern rheumatology 31(3):529-533 2021/03	Original Article
43	Nakashima I, Horibe M, Sanui M, et al.	消化器肝臓内科	Impact of Enteral Nutrition Within 24 Hours Versus Between 24 and 48 Hours in Patients With Severe Acute Pancreatitis: A Multicenter Retrospective Study	Pancreas 50(3):371-377 2021/03	Original Article
44	Kobayashi T, Ishida M, Miki H, et al.	消化器肝臓内科	p62 is a useful predictive marker for tumour regression after chemoradiation therapy in patients with advanced rectal cancer: An immunohistochemical study.	Colorectal disease 23(5):1083-1090 2021/03	Original Article
45	Hasuo H, Sakuma H, Fukunaga M.	心療内科	Alexithymia in Family Caregivers of Advanced Cancer Patients Is Associated with High Personalized Pain Goal Scores: A Pilot Study.	Journal of palliative medicine 23(7):930-936 2020/07	Original Article
46	Hasuo H, Kanbara K, Shizuma H, Met al.	心療内科	Short-term efficacy of home-based heart rate variability biofeedback on sleep disturbance in patients with incurable cancer: a randomised open-label study	BMJ Supportive & Palliative Care 2020(0):1-9 2020/09	Original Article
47	Hasuo H, Shizuma H, Fukunaga M	心療内科	Factors associated with chronic thoracic spine and low back pain in caregivers of cancer patients	Annals of Palliative Medicine 10(2):1224-1236 2021/02	Original Article
48	Hamatani M, Yamashita H, Ochi H, et al.	脳神経内科	Altered features of monocytes in adult onset leukoencephalopathy with axonal spheroids and pigmented glia: A clue to the pathomechanism of microglial dyshomeostasis	Neurobiology of disease 140:104867 2020/04	Original Article
49	Nakayama K, Nakamura M, Konishi A, et al.	脳神経内科	JC virus granule cell neuronopathy associated with Ruxolitinib: A case report and review of the literature	eNeurologicalSci 21:100269 2020/09	Original Article
50	Kato M, Asami Y, Dalia B. Wajsbrot, et al.	精神神経科	Clustering patients by depression symptoms to predict venlafaxine ER antidepressant efficacy: Individual patient data analysis	Journal of psychiatric research 129:160-167 2020/10	Original Article
51	Takekita Y, Inoue S, Baba K, et al.	精神神経科	Rehospitalization Risk of Receptor-Affinity Profile in Antipsychotic Drug Treatment: A Propensity Score Matching Analysis Using a Japanese Employment-Based Health Insurance Database	Neuropsychiatric disease and treatment 16:2871-2879 2020/11	Original Article
52	Kato M, Adachi N, Kubota Y, et al.	精神神経科	Clinical features related to rapid cycling and one-year euthymia in bipolar disorder patients: A multicenter treatment survey for bipolar disorder in psychiatric clinics (MUSUBI)	Journal of psychiatric research 131:228-234 2020/12	Original Article
53	Takekita Y, Hiraoka S, Iwama Y, et al.	精神神経科	Divergence of dose response with asenapine: a cluster analysis of randomized, double-blind, placebo control study	CNS spectrums First View:1-9 2021/01	Original Article
54	Kato M, Hori H, Inoue T, et al.	精神神経科	Discontinuation of antidepressants after remission with antidepressant medication in major depressive disorder: a systematic review and meta-analysis	Molecular psychiatry 26(1):118-133 2021/01	Original Article
55	Yanagimoto Y, Ishizaki Y, Kaneko K.	小児科	Iron deficiency anemia, stunted growth, and developmental delay due to avoidant/restrictive food intake disorder by restricted eating in autism spectrum disorder	Biopsychosocial Medicine 14:8 2020/04	Case Report
56	Kaneko K.	小児科	The discovery of a new simple formula to estimate maintenance fluid volume	Pediatrics international 62(5):521 2020/05	Others
57	Kaneko K.	小児科	The importance of clinical teacher development in cultivating excellent pediatric residency programs	Pediatrics international 62(5):520 2020/05	Others
58	Ishizaki Y, Gomi H.	小児科	Human papillomavirus vaccination and postural tachycardia syndrome, deconditioning and exercise-induced hyperalgesia: An alternate interpretation of the reported adverse reactions	The journal of obstetrics and gynaecology research 46(5):678-683 2020/05	Review
59	Akagawa S, Tsuji S, Akagawa Y, et al.	小児科	Desmopressin Response in Nocturnal Enuresis Showing Concentrated Urine	Pediatrics international 62(6):701-704 2020/06	Original Article
60	Kaneko K, Akagawa S, Akagawa Y, et al.	小児科	Our Evolving Understanding of Kawasaki Disease Pathogenesis: Role of the Gut Microbiota	Frontiers in immunology 11:1616 2020/07	Review

小計  
20件

61	Fujii Y, Morimoto T	小児科	Utility of Mosapride citrate combined with osmotic laxatives and probiotics in the initial treatment of pediatric functional constipation	Japanese Journal of Gastroenterology and Hepatology 5(14):1-4 2020/08	Case Report
62	Urakami C, Matsuno R, Omachi T, et al.	小児科	Mind the gap in Hyponatremia!	Journal of Pediatric Hematology/Oncology 23-23 2020/11	Case Report
63	Yamanouchi S, Yamagishi M, Kaneko S, et al.	小児科	Dysregulation of angiotensin-1 and angiotensin-2 in an infant with fatal Clarkson disease.	Pediatr International 62(12):1400-1401 2020/12	Case Report
64	Akagawa Y, Kimata T, Akagawa S, et al.	小児科	Impact of Long-Term Low Dose Antibiotic Prophylaxis on Gut Microbiota in Children	The Journal of urology 204(6):1320-1325 2020/12	Original Article
65	Akagawa S, Akagawa Y, Yamanouchi S, et al.	小児科	Development of the gut microbiota and dysbiosis in children	Bioscience of Microbiota, Food and Health 40(1):12-18 2020/08	Review
66	Ishizaki Y, Higuchi T, Yanagimoto Y, et al.	小児科	Eye gaze differences in school scenes between preschool children and adolescents with high-functioning autism spectrum disorder and those with typical development.	BioPsychoSocial medicine 15(1):2-2 2021/01	Original Article
67	Yamaguchi T, Tsuji S, Akagawa S, et al.	小児科	Clinical Significance of Probiotics for Children with Idiopathic Nephrotic Syndrome	Nutrients 13(2):365 2021/01	Original Article
68	Sakaguchi T, Satoi S, Yamamoto T, et al.	外科	The past, present, and future status of multimodality treatment for resectable/borderline resectable pancreatic ductal adenocarcinoma	Surgery today 50(4):335-343 2020/04	Review
69	Matsushima H, Hishikawa H, Miki H, et al.	外科	Cinnamomi Cortex and Scutellariae Radix in Japanese herbal medicine Kampo saireito inhibit expression of iNOS through different mechanisms in hepatocytes	Traditional and Kampo Medicine 7(1):38-47 2020/04	Original Article
70	Yanagimoto H, Satoi S, Yamamoto T, et al.	外科	Benefits of Conversion Surgery after Multimodal Treatment for Unresectable Pancreatic Ductal Adenocarcinoma	Cancers 12(6):1428 2020/05	Original Article
71	Hashimoto D, Mizuma M, Kumamaru H, et al.	外科	Risk model for severe postoperative complications after total pancreatectomy based on a nationwide clinical database	The British journal of surgery 107(6):734-742 2020/05	Original Article
72	Kaibori M, Yoshii K, Hasegawa K, et al.	外科	Impact of systematic segmentectomy for small hepatocellular carcinoma	Journal of hepato-biliary-pancreatic sciences 27(6):331-341 2020/06	Original Article
73	Hashimoto D, Poudel S, Hirano S, et al.	外科	Is there disparity between regions and facilities in surgical resident training in Japan? Insights from a national survey	Surgery today 50:1585-1593 2020/06	Original Article
74	Sugie T, Sato E, Miyashita M, et al.	外科	Multispectral quantitative immunohistochemical analysis of tumor-infiltrating lymphocytes in relation to programmed death-ligand 1 expression in triple-negative breast cancer	Breast cancer 27(4):519-526 2020/07	Original Article
75	Satoi S, Yamamoto T, Uchida K, et al.	外科	Optimal Treatment for Octogenarians With Resectable and Borderline Resectable Pancreatic Ductal Adenocarcinoma: A Multicenter Retrospective Study	Pancreas 49(6):837-844 2020/07	Original Article
76	Nakamura H, Doi T, Puri P, et al.	外科	Transgenic animal models of congenital diaphragmatic hernia: a comprehensive overview of candidate genes and signaling pathways	Pediatric surgery international 36(9):991-997 2020/09	Review
77	Hashimoto D, Yamamoto T, Yamaki S, et al.	外科	Pancreatic trauma: proposal for management algorithm	International surgery 10.9738/INTSURG-D-20-00015.1 2020/12	Original Article
78	Matsui Y, Hamada M, Sumiyama F, et al.	外科	Two cases of primary solitary fibrous tumor in the pelvis resected using laparoscopic surgery	International journal of surgery case reports 71:58-65 2020/05	Case Report
79	Kaibori M, Matsushima H, Ishizaki M, et al.	外科	Perioperative Geriatric Assessment as A Predictor of Long-Term Hepatectomy Outcomes in Elderly Patients with Hepatocellular Carcinoma	Cancers 13(4):842 2021/02	Original Article
80	Kaibori M, Kosaka H, Matsui K, et al.	外科	Near-Infrared Fluorescence Imaging and Photodynamic Therapy for Liver Tumors	Frontiers in oncology 11:638327 2021/02	Review

小計  
20件

81	Soeda M, Hamada M, Kobayashi T, et al.	外科	Combined laparoscopic and transanal minimally invasive repair for postoperative rectovaginal fistula – a video vignette	Colorectal disease 23(3):761 2021/03	Others
82	Matsumi Y, Hamada M, Sakaguchi T, et al.	外科	Image–Navigation Surgery with Fluorescent Ureteral Catheter for the Anterior Lesion of the Low Rectal Cancer Requiring Prostate Shaving and Lateral Pelvic Lymph Node Dissection	Diseases of the colon and rectum 64(3):e54 2021/03	Original Article
83	Hino H, Saito T, Matsui H, et al.	呼吸器外科	Utility of Geriatric Nutritional Risk Index in patients with lung cancer undergoing surgery	European journal of cardio–thoracic surgery 58(4):775–782 2020/04	Original Article
84	Matsui H, Utsumi T, Maru N, et al.	呼吸器外科	A case of IgG4–related anterior mediastinal sclerosing disease coexisting with autoimmune pancreatitis	Surgical Case Reports 23(6):180 2020/07	Case Report
85	Taniguchi Y, Ishida M, Saito T, et al.	呼吸器外科	Preferentially expressed antigen in melanoma as a novel diagnostic marker differentiating thymic squamous cell carcinoma from thymoma	Scientific reports 10(1):12286 2020/07	Original Article
86	Utsumi T, Hino H, Kuwauchi S, et al.	呼吸器外科	Anomalous systemic arterial supply to the basal segment of the lung with giant aberrant artery: a case report	Surgical Case Reports 6:285–285 2020/11	Case Report
87	Murakawa T.	呼吸器外科	Past, present, and future perspectives of pulmonary metastasectomy for patients with advanced colorectal cancer	Surgery today 51(2):204–211 2021/02	Review
88	Matsui H, Taniguchi Y, Maru N, et al.	呼吸器外科	Prognostic effect of preoperative red cell distribution width on the survival of patients who have undergone surgery for non-small cell lung cancer	Molecular and Clinical Oncology 14(5):108–108 2021/03	Original Article
89	Hino H, Tanaka N, Matsui H, et al.	呼吸器外科	Isolated middle mediastinal mass associated with immunoglobulin G4–related disease	Surg Case Rep. 7(1):69 2021/03	Case Report
90	Zempo N, Azuma N, Obitsu Y, et al.	心臓血管外科	Vascular Surgery in Japan: 2014 annual report by the Japanese Society for Vascular Surgery	Ann Vasc Surg 13:473–493 2020/12	Original Article
91	Hosono M, Yasumoto H, Kuwauchi S, et al.	心臓血管外科	Flowmetric assessment of the free right internal thoracic artery anastomosed proximally to a saphenous vein graft to revascularize the left coronary artery system.	Journal of Coronary Artery Disease 26(3):57–62 2020/09	Original Article
92	Hosono M, Kawazoe K, Kuwauchi S, et al.	心臓血管外科	Commissure enhancement technique in aortic valve repair.	General thoracic and cardiovascular surgery 68(4):408–410 2020/04	Case Report
93	Ueno K, Nonaka M, Isozaki H, et al.	脳神経外科	Resection of a recurrent medulloblastoma in the anterior middle part of the aqueduct with a flexible endoscope: a case report	Child’s nervous system : ChNS 37(2):665–669 2021/02	Original Article
94	Li Y, Nonaka M, Kanemura Y, et al.	脳神経外科	A case of medulloblastoma in a patient with fetal ventricular enlargement	Child’s nervous system : ChNS 37:977–982 2021/03	Original Article
95	Yagura T, Oe K, Paku M, et al.	整形外科	A Possible Protective Effect of the 'Cam Deformity' on Femoral Neck Fracture: The Relationship between Hip Morphology and the Types of Hip Fracture	Acta medica Okayama 74(3):221–227 2020/06	Original Article
96	Nakanishi Y, Kakudo N, Kusumoto K	形成外科	Use of a Lateral Orbital Flap for Lateral Canthal Reconstruction: A Case Report	Eplasty 20:ic10 2020/05	Case Report
97	Hihara M, Kakudo N, Morimoto N, et al.	形成外科	Improved viability of murine skin flaps using a gelatin hydrogel sheet impregnated with bFGF	Journal of artificial organs 23(4):348–357 2020/07	Original Article
98	Sato G, Yoshida T, Yanishi M, et al.	腎泌尿器外科	Preoperative Pyuria Predicts for Intravesical Recurrence in Patients With Urothelial Carcinoma of the Upper Urinary Tract After Radical Nephroureterectomy Without a History of Bladder Cancer.	Clinical genitourinary cancer 18(2):e167–e173 2020/04	Original Article
99	Yoshida T, Setsuda S, Ishizuka M, et al.	腎泌尿器外科	Photodynamic Diagnosis with Oral 5–Aminolevulinic Acid for Upper Urinary Tract Carcinoma – A Prospective Clinical Trial.	Journal of endourology 34(4):509–515 2020/04	Original Article

100	Yanishi M, Kinoshita H, Matsuzaki T, et al.	腎泌尿器外科	Laparoendoscopic Single-Site Surgery for Urachal Remnants: A Single-Center Experience.	Urologia internationalis 104(1-2):70-74 2020/04	Original Article
101	Saito R, Kobayashi T, Kashima S, et al.	腎泌尿器外科	Faithful preclinical mouse models for better translation to bedside in the field of immuno-oncology.	International journal of clinical oncology 25(5):831-841 2020/05	Review
102	Yoshida T, Kinoshita H, Taniguchi H, et al.	腎泌尿器外科	A randomized, open-label, controlled trial of monthly oral minodronate or semiannual subcutaneous injection of denosumab for bone loss by androgen deprivation in Asian men with prostate cancer: the PREvention of Osteopenia with Minodronate And DENosumab (PROMADE) study	Osteoporosis international 31(7):1251-1259 2020/07	Original Article
103	Matsuzaki T, Yoshida T, Murota T, et al.	腎泌尿器外科	Complete intraureteral stent placement relieves daytime urinary frequency compared with conventional placement in patients with an indwelling ureteral stent: post-hoc analysis of a randomized, controlled trial	Scientific reports 10(1):15892 2020/09	Original Article
104	Yoshida T, Kobayashi T, Kawaura T, et al.	腎泌尿器外科	Development and external validation of a preoperative nomogram for predicting pathological locally advanced disease of clinically localized upper urinary tract carcinoma	Cancer medicine 9(11):3733-3741 2020/04	Original Article
105	Masuo Y, Taniguchi H, Matsuzaki T, et al.	腎泌尿器外科	Robot-assisted laparoscopic vesicule prostatectomy for mixed epithelial-stromal tumor of seminal vesicle	IJU Case Reports 3(3):103-107 2020/04	Case Report
106	Ohnogi H, Yoshida T, Ohe C, et al.	腎泌尿器外科	The SSPN Score, a Novel Scoring System Incorporating PBRM1 Expression, Predicts Postoperative Recurrence for Patients with Non-metastatic Clear Cell Renal Cell Carcinoma	Annals of surgical oncology 28:2359-2366 2020/09	Original Article
107	Ikeda J, Ohe C, Yoshida T, et al.	腎泌尿器外科	Comprehensive pathological assessment of histological subtypes, molecular subtypes based on immunohistochemistry, and tumor-associated immune cell status in muscle-invasive bladder cancer	Pathology International 71(3):173-182. 2021/03	Original Article
108	Mori H, Yamada H, Takahashi K	眼科	Long-term Results of Choroidal Neovascularization Secondary to Angioid Streaks	Graefe's archive for clinical and experimental ophthalmology 258(9):1863-1869 2020/09	Original Article
109	Takahashi H, Nakagawa K, Yamada H, et al.	眼科	Time course of collateral vessel formation after retinal vein occlusion visualized by OCTA and elucidation of factors in their formation.	Heliyon 7(1):e05902 2021/01	Original Article
110	Mori H, Takahashi K	眼科	Case of a giant conjunctival melanocytic nevus	Ocular oncology and pathology 7(2):97-102 2021/03	Review
111	Yun Y, Kanda A, Kobayashi Y, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Increased CD69 expression on activated eosinophils in eosinophilic chronic rhinosinusitis correlates with clinical findings.	Allergology International 69(2):232-238 2020/04	Original Article
112	Miyata E, Miyamoto M, Shiromoto O, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Early voice therapy for unilateral vocal fold paralysis improves subglottal pressure and glottal closure	American Journal of Otolaryngology 41(6):Article 102727 2020/11	Original Article
113	Kanda A, Yun Y, Bui DV, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	The multiple functions and subpopulations of eosinophils in tissues under steady-state and pathological conditions	Allergology International 70(1):9-18 2021/01	Review
114	Yun Y, Yagi M, Sakagami T, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Odontogenic Maxillary Sinusitis: Therapeutic Management of Cases with Oroantral Fistulae	Sinusitis 5(1):53-58 2021/03	Original Article
115	Suzuki K, Iwai H, Utsunomiya K, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Combination therapy with lenvatinib and radiation significantly inhibits thyroid cancer growth by uptake of tyrosine kinase inhibitor	Experimental cell research 398(1):Article No.112390 2021/01	Original Article
116	Kazawa N, Yamashita Y, Shibamoto Y.	放射線科	Primary Hepatic leiomyosarcoma (PHLS): A case report and literature review.	Int J Radiol Diag Imaging 3(4):80-86 2020/10	Original Article
117	Koike Y, Anetai Y, Takegawa H, et al.	放射線科	Deep learning-based metal artifact reduction using cycle-consistent adversarial network for intensity-modulated head and neck radiation therapy treatment planning	Physica Medica 78:8-14 2020/10	Original Article
118	Kariya S, Nakatani M, Ono Y, et al.	放射線科	Assessment of the Antithrombogenicity of a Poly-2-Methoxyethylacrylate-Coated Central Venous Port-Catheter System	Cardiovascular and interventional radiology 43(5):775-780 2020/05	Original Article
119	Ono Y, Kariya S, Nakatani M, et al.	放射線科	Clinical results of transarterial embolization for post-partum hemorrhage in 62 patients.	J. Obstet. Gynaecol. Res. 47(1):226-232 2020/10	Original Article

小計  
20件

120	Kono Y, Utsunomiya K, Kan N, et al.	放射線科	A comparison of HER2/neu accumulations of Ga-67-labeled anti-HER2 antibody with chemically and site-specifically conjugated bifunctional chelators	Cancer treatment and research communications 27:100333 2021/02	Original Article	小計 20件
121	Kido T, Murata H, Nishigaki A, et al.	産婦人科	Glucose transporter 1 is important for the glycolytic metabolism of human endometrial stromal cells in hypoxic environment	Heliyon 6(6):e03985 2020/06	Original Article	
122	Yokoe T, Yasuda K, Yoshimura T, et al.	産婦人科	Monozygotic twins with ovarian cancer carrying a pathogenic BRCA1 germline mutation: A case report	SN comprehensive clinical medicine 2(7):1012-1015 2020/06	Original Article	
123	Kobayashi M, Murata H, Nishigaki A, et al.	産婦人科	Thyroid hormone facilitates in vitro decidualization of human endometrial stromal cells via thyroid hormone receptors	Endocrinology 161(6):1-16 2020/04	Original Article	
124	Murata H, Tanaka S, Tsuzuki-Nakao T, et al.	産婦人科	The transcription factor HAND2 up-regulates transcription of the IL15 gene in human endometrial stromal cells	The Journal of biological chemistry 295(28):9596-9605 2020/07	Original Article	
125	Mutara H, Tanaka S, Okada H	産婦人科	Immune Tolerance of the Human Decidua	Journal of clinical medicine 10(2):351 2021/01	Review	
126	Kida N, Matsuo Y, Hashimoto Y, et al.	産婦人科	Cigarette Smoke Extract Activates Hypoxia-Inducible Factors in a Reactive Oxygen Species-Dependent Manner in Stroma Cells from Human Endometrium.	Antioxidants (Basel). 3(10):48 2021/01	Original Article	
127	Kida N, Nishigaki A, Kakita-Kobayashi M, et al.	産婦人科	Exposure to cigarette smoke affects endometrial maturation including angiogenesis and decidualization.	Reprod Med Biol. 11(20):108-118 2021/01	Original Article	
128	Yasuda K, Yoshida A, Okada H.	産婦人科	Conflicting Nongenomic Effects of Progesterone in the Myometrium of Pregnant Rats.	Int J Mol Sci. 22(4):2154 2021/02	Original Article	
129	Kita M, Sumi G, Butsuhara Y, et al.	産婦人科	Resection of vaginal recurrence of granulosa cell tumor by pneumovaginal endoscopic surgery	Gynecologic Oncology Report 36:100743 2021/03	Others	
130	Ito A, Nakamoto T, Ohira S, et al.	麻酔科	Postoperative tetraplegia due to conversion disorder upon emergence from general anesthesia	JA clinical reports 6(1):88 2020/10	Case Report	
131	Noda Y, Nakanishi Y, Izui A, et al.	病理診断科	A rare extraocular sebaceous carcinoma mimicking primary ectopic breast cancer.	Human Pathology: Case Reports 21:200415 2020/09	Case Report	
132	Terashima S, Muroya T, Ikegawa H, et al.	救急医学科	Propofol suppresses ventricular arrhythmias: a case report of acute caffeine intoxication	Acute medicine & surgery 7(1):doi: 10.1002/ams2.514. eCollection Jan-Dec 2020-2020/06	Case Report	
133	Terashima S, Hayakawa K, Saito F, et al.	救急医学科	Hemophagocytic syndrome with severe sepsis caused by Capnocytophaga canimorsus	The American journal of emergency medicine 38(7):1540.e5-1540.e8 2020/07	Case Report	
134	Satake H, Ando K, Oki E, et al.	がんセンター	Protocol of the EFFORT study: a prospective study of FOLFIRI plus aflibercept as second-line treatment after progression on FOLFOXIRI plus bevacizumab or during maintenance treatment in patients with unresectable/metastatic colorectal cancer	BMC cancer 20(1):1116 2020/11	Original Article	
135	Satake H, Kato T, Oba K, et al.	がんセンター	Phase Ib/II Study of Biweekly TAS -102 in Combination with Bevacizumab for Patients with Metastatic Colorectal Cancer Refractory to Standard Therapies (BiTS study)	Oncologist 25(12):e1855-e1863 2020/12	Original Article	小計 15件

(注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

合計  
135件

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article, Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ○申請書手続き及び判定の通知 ○研究の実施及び報告 ○有害事象の報告 ○健康被害に対する保障 ○実施制限及び再審査 ○公開	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 産学連携活動に伴い発生する利益相反を適切にマネジメントすることに関し必要な事項を定めることにより、本法人及び教職員等の社会的信頼を確保するとともに、もって教育、研究及び社会への貢献を継続的かつ適切に遂行することを目的としている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回 ※令和3年3月30日実施

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	・年6回 ・DVD講習会(4回:7月) ・コロナ禍にて、8月より、集
-----------------------	--

	<p>合研修のDVD講習会を廃止。学内HPで講習会の動画を配信し、随時、確認テストを受けつけ、基準点以上の正解で受講歴とする、「Web倫理講習(個別講習)」へ切替えた。</p>
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>倫理講習会：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第11回 「臨床研究のすすめ」</li> <li>・ 第12回 「統計学から見る研究計画の科学的合理性」</li> </ul> <p>臨床研究ワークショップ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第18回 「AMED資金獲得に向けての研究計画書の書き方」</li> <li>・ 第19回 「看護研究のすすめかた」</li> <li>・ 第20回 「看護における質的研究の基本」</li> <li>・ 第21回 「ケーススタディのまとめかた」</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

多くの診療各科ではその所属する学会が定める専門医を目指して研修が行われますが、本院では研修の年ごとの具体的目標と研修計画が設定されています。また、研修を円滑に進捗させるため研修進捗状況の把握、評価し問題があれば改善を勧告する後期研修システムを備えています。

また、手術支援ロボット ダ・ヴィンチSiの導入など、高度かつ先進的な医療に関する研修を行っています。

平成25年4月には、本院に直結する新学舎がオープンし、最新の研究室、基本的な医療技術及び医療実践能力の向上を目的としたシミュレーションセンターや電子ジャーナルを取り入れた図書館などを備え研修を最高レベルで一貫して行える体制を整えています。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	116人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
野村 昌作	血液呼吸器膠原病感染症内科	診療部長・主任教授	40年	アレルギー疾患内科またはアレルギー科、リウマチ科を含む
塩島 一郎	循環器腎内分泌代謝内科	診療部長・主任教授	35年	
長沼 誠	消化器肝臓内科	診療部長・主任教授	29年	
福永 幹彦	心療内科	診療部長・主任教授	36年	
薬師寺 祐介	脳神経内科	診療部長・主任教授	25年	
加藤 正樹	精神神経科	診療科長・准教授	24年	
金子 一成	小児科	診療部長・主任教授	37年	
関本 貢嗣	外科	診療部長・主任教授	40年	消化器外科、乳腺外科、小児外科を含む
湊 直樹	心臓血管外科	診療部長・主任教授	40年	
村川 知弘	呼吸器外科	診療部長・主任教授	29年	
浅井 昭雄	脳神経外科	診療部長・主任教授	40年	
齋藤 貴徳	整形外科	診療部長・主任教授	38年	
長谷 公隆	リハビリテーション科	診療部長・主任教授	36年	

覚道 奈津子	形成外科	診療部長・主任教授	19年	
谷崎 英昭	皮膚科	診療部長・主任教授	19年	
木下 秀文	腎泌尿器外科	診療部長・主任教授	33年	
高橋 寛二	眼科	診療部長・主任教授	37年	
岩井 大	耳鼻咽喉科	診療部長・主任教授	38年	内分泌外科を含む
谷川 昇	放射線科	診療部長・主任教授	36年	
岡田 英孝	産婦人科	診療部長・主任教授	28年	
上林 卓彦	麻酔科	診療部長・主任教授	34年	
鳶 幸治	病理診断科	診療部長・主任教授	25年	
鋤方 安行	救急医学科	診療部長・主任教授	38年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ①採血の注意点とコツ ・研修の期間・実施回数 ①令和2年10月28日 ・研修の参加人数 ① 24名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ①内部監査勉強会      ②精度管理を始めよう      ③倫理と個人情報 ・研修の期間・実施回数 ①令和2年9月30日      ②令和2年12月4日      ③令和2年12月17日 ・研修の参加人数 ① 32名                      ②15名                      ③32名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 松田 公志
管理担当者氏名	事務部長 藤原宏司、看護部長 島村里香、薬剤部長 谷川昇

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	管理課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	手術部
		看護記録	各病棟
		検査所見記録	臨床検査部
		エックス線写真	放射線部
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病歴情報課 病歴情報課
			当院は2006年開院時から電子カルテを導入しており、保管期間は診療が完了した日から20年としている。紹介状や同意書等の紙媒体で生成されるものについては、電子カルテにスキャンし、紙媒体も原本として保管している。また、画像フィルムについてはすべてのモダリティのフィルムレス化を実施しており、現物保管は行っていない。診療録を病院外へ持ち出すことは、個人情報保護の観点から認めていない。患者データの抽出は、所定の抽出依頼書に所属部門長の承認を受けた上で医療情報部へ申請を行う。医療情報部長は利用目的を審査の上、患者データの抽出を行う。依頼者は患者データの利用が完了次第、速やかに依頼者の責任のもと患者データを削除する。
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	管理課
		高度の医療の提供の実績	各診療科
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科
		高度の医療の研修の実績	各診療科
		閲覧実績	病歴情報課
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携部
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部
	掲げる事項の十一第一項に	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
			・保管部署で管理
			・保管部署で管理

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	・ 保管部署で管理
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医用工学部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医用工学部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医用工学部			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医用工学部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	用度課
		監査委員会の設置状況	法人 総合企画課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	管理課
管理者が有する権限に関する状況	管理課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	内部監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人 総合企画課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 松田 公志	
閲覧担当者氏名	管理課長 船原 宏通 医事課長 山本和彦 病歴情報課長 石原久美子	
閲覧の求めに応じる場所	1階 情報ライブラリー室	
閲覧の手続の概要		
・ 閲覧申請書を記入の上、申請窓口である管理課へ提出する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理に関する基本的考え方</li> <li>2. 医療安全管理対策委員会その他組織に関する基本的事項</li> <li>3. 職員に対する医療安全管理のための研修に関する基本方針</li> <li>4. 医療事故報告等の医療安全確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li> <li>5. 医療事故発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 (患者等に対する当指針の閲覧に関する基本方針を含む)</li> <li>7. 患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>8. その他医療安全の推進のため必要な基本方針</li> </ol> </li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無 ( ☑・無 )</li> <li>・ 開催状況：年17回</li> <li>・ 活動の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>医療安全管理対策委員会 (対面11回、書面審議1回)</li> <li>セーフティマネージャー委員会 (書面審議のみ11回)</li> <li>医療の経過検討委員会 (6回)</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 5 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容 (すべて)：               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 院内の安全ルール</li> <li>○ 薬剤管理指導業務を行う際の注意点</li> <li>○ 事例から学ぶ医薬品安全</li> <li>○ 新型コロナウイルス感染と医療安全</li> <li>○ eラーニング                   <ul style="list-style-type: none"> <li>● 持参薬の確認不足</li> <li>● 搬送時の患者取り違え</li> <li>● 外来での患者取り違えによる誤注射</li> <li>● 入院中に発生した転倒</li> <li>● コンフリクトマネジメント (紛争発見時の対応)</li> <li>● チームSTEPPS研修 初級編</li> <li>● セーフティマネージャー委員専用研修</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( ☑・無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 電子化入力による運用をしている。第1報は全職員、第2報はセーフティマネージャーが確認の上、入力を行う。</li> <li>2) 事故報告等の目的は、「個人を罰することではなく事故の再発防止に</li> </ol> </li> </ul>	

- 活用する事である」と定めている。
- 3) 報告すべき事項は、療養指導・情報提供に関することからその他まで29項目であり、項目の中には、入院患者が死亡、死産した場合の死亡の事実・死亡前の状況、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要となったもので、院内で定めた水準以上の事象が発生した際の事実と発生前の状況などの項目も含まれている。
  - 4) 報告先は、セーフティマネージャー、所属部門の部長を経て医療安全管理部、病院長である。  
緊急を要する場合は、直接病院長へ報告し、指示を受けて対処する。
  - 5) 医療安全管理部は報告をうけて速やかに内容を把握し、当該のセーフティマネージャーと分析し、対策を講じる。
  - 6) 適切な報告のための職員への指導や研修

・ その他の改善のための方策の主な内容：

- 1) 死亡・死産報告の義務化と合併症報告の対象の一部基準化
- 2) 医療安全管理マニュアルの年1回の改訂
- 3) e-ラーニングと医療安全管理部作成のオリジナル動画配信による職員講習の実施。受講内容の理解度を測る確認テストを兼ねたアンケートの実施
- 4) 技術研修（模擬体と超音波装置を使用したシミュレーション訓練）
- 5) 新入職者、中途入職者への医療安全に関するオリエンテーション
- 6) 医療事故防止策は、セーフティマネージャーが中心となり、時系列と必要に応じてRCAを行い、背景要因を明らかにすることから立案を行う
- 7) 事例から検討された医療の安全確保のための方策の職員への周知と周知状況の確認
- 8) 放射線科の検査報告書の未読リストを該当診療科送付による見落とし予防対策
- 9) 毎月、部署やセーフティマネージャー委員へ医療安全の情報を広報するマンスリーレポートの配布。
- 10) 医療安全管理部のHPによる広報活動

<安全ラウンド>

- 1) テーマに沿ったセーフティマネージャー委員を交えた院内ラウンド
- 2) 医療事故発生時、発生部署、関連部署への聞き取り
- 3) 日本私立医科大学協会による他の私立医科大学との書面による相互ラウンド

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>I 医療関連感染対策に関する基本的な考え</li> <li>II 感染対策委員会の設置</li> <li>III 病院感染対策マニュアル</li> <li>IV 感染症の報告</li> <li>V 医療関連感染発生時の対応</li> <li>VI 職員研修の基本方針</li> <li>VII 患者への指針の公開</li> </ul> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年10回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>○MRSAおよび多剤耐性菌の検出状況把握と対策</li> <li>○抗菌薬の使用状況調査と感受性の推移調査</li> <li>○抗菌薬使用報告書、TDM等の抗菌薬適正使用状況調査</li> <li>○院内感染発生時の対応、対策</li> <li>○感染対策研修会の企画および開催</li> <li>○院内ラウンドサーベイランスの実施</li> <li>○血液培養陽性症例ラウンドの実施</li> <li>○針刺事故の発生状況と事故防止対策の検討</li> <li>○感染防止対策地域連携合同カンファレンスでの報告</li> <li>○滅菌材料部滅菌状況報告</li> </ul> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 5回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> <li>○病院職員が知っておくべき院内感染対策1</li> <li>○病院職員が知っておくべき院内感染対策2</li> <li>○新型コロナウイルス感染症 ～どうすれば感染するか？感染した時の不都合は？～</li> <li>○感染対策の基礎</li> <li>○e-ラーニング <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染経路と感染経路別予防策</li> <li>・ AMRに立ち向かうために</li> <li>・ 医療感染性廃棄物について</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☑・無)</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備</li> <li>・ 病棟ラウンド(IGTラウンド)時の監査内容のフィードバック</li> <li>・ 感染対策研修会の開催、DVD貸出、e-ラーニング</li> <li>・ 地域連携カンファレンスの開催(4回/年)</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	○ 有 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○ 医薬品安全講演会・医療安全講習会（随時、全職員対象） 今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、オンデマンドおよびDVDによる講習を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「事例から学ぶ医薬品安全 Vol.1」</li> <li>・ 「院内の安全ルール」の内容に「アレルギー情報の取り扱いとアナフィラキシー対応」追加</li> </ul> <p>○ e-ラーニング&lt;Safety Plus&gt;（随時、全職員対象）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「持参薬の確認不足」のコンテンツを課題選定して、優先的に受講するように促した。</li> </ul> <p>○ その他（対象者限定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「事例で学ぶ薬剤管理指導業務を行う際の注意点」（9～10月、3回実施、薬剤師対象）</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （○ 有 無）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>○ 医薬品の採用・購入</p> <p>○ 調剤室・病棟における医薬品の管理</p> <p>○ 病棟・各部門への医薬品の供給</p> <p>○ 外来・入院患者への医薬品使用</p> <p>○ 医薬品情報の収集・管理・提供</p> <p>○ 手術・麻酔部門における医薬品安全使用</p> <p>○ 救急部門・集中治療部門における医薬品安全使用</p> <p>○ 輸血・血液管理部門・血液浄化部門における医薬品安全使用</p> <p>○ 画像診断部門・内視鏡部門・外来化学療法部門・歯科領域における医薬品安全使用</p> <p>○ 他施設との連携に関する事項</p> <p>○ 事故発生時の対応</p> <p>○ 教育・研修</p> <p>○ 医薬品関連の情報システムの利用</p> <p>○ その他</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （○ 有 無）</p> <p>○ 適応外使用（新規申請事例）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大腿骨頸部巨細胞腫に対する無水エタノールの腫瘍腔内注入（2020.12）</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する「アビガン錠200」の内服（2020.12）</li> </ul> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>○ 「鎮静に関する院内ガイドライン」の新規作成（2020.4）</p> <p>○ 放射線関連検査における医薬品安全への取り組み（2020.5～6）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 造影検査に関する説明同意文書および問診票の改訂</li> <li>・ ビグアナイド製剤服用および心臓ペースメーカー装着を確認する項目の追加</li> <li>・ 造影検査の注意事項文書（腎機能低下やビグアナイド製剤服用患者への対応）の新規作成</li> <li>・ PET検査（全身・脳・心筋）に関する説明文書の新規作成</li> </ul> <p>○ SGLT2阻害薬の副作用防止対策として、周術期中止の院内ルール作成（2020.7）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正常血糖ケトアシドーシスの予防対策「術前3日前～経口摂取正常まで中止」を設定</li> </ul> <p>○ アレルギー既往薬を使用する際の説明同意書の新規作成（2020.10）</p> <p>○ せん妄ハイリスクケア加算における薬剤確認事項入力時のアシスト機能の追加（2021.2）</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年66回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○特定医療機器(人工心肺、人工呼吸器、除細動器、閉鎖式保育器、血液浄化装置、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線装置)に関する取扱い説明、インシデント事案を含めた研修</p> <p>○新規購入に伴う取り扱い研修実施</p> <p>○新人研修医、看護師に対する人工呼吸器、生体情報モニタ等の実機使用説明実施</p> <p>○特定医療機器の定期研修に関してはe-ラーニングにて実施</p> <p>→放射線関係については放射線部で対応実施</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>○放射線関連装置は放射線治療部において、その他の特定医療機器については医用工学部にて保守点検計画書を作成し、それに基づき定期点検を実施、点検記録簿を作成している。</p> <p>特定医療機器以外では生体情報モニタ、電気メス、シリンジ、輸液ポンプ、ペースメーカー、麻酔器、逐次型空気圧式マッサージ器、低圧持続吸引器も保守点検計画にて実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)：有</p> <p>兎眼による解放眼球に対して乾燥を防止するために手術用テックスフリー滅菌グローブをシート状に切断して使用。2021年2月6日に未承認・新規医薬品・医療機器等評価部門へ申請され、審議の結果、同年2月20日に同部門において承認されました。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>○日本医療評価機構、PMDA、メーカーから発出される自主回収・安全情報を院内ALL USERメールにて情報発信している。その中で当院に設置(使用)しているものは医用工学部及び、医療機器安全管理責任者、関連部署へ報告実施している。</p> <p>また、医用工学部H.P上で医療機器安全情報の発信もしている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・ 責任者の資格 (医師・ 歯科医師)</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>組織分掌規則に医療安全管理責任者は、「医療安全管理部、医療安全管理対策委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する」と明記している。</p> <p>また、医療安全管理責任者は副病院長ならびに医療安全管理対策委員会の委員長である。一方、医薬品安全管理責任者と医療機器安全管理責任者は医療安全管理対策委員会の委員であり、医療安全管理委員会に業務を報告する。以上のような配置により、医療安全管理責任者は医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 6 名)
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>○1ヶ月毎に薬品別使用量や金額使用量を集計した「院内医薬品使用状況一覧」を作成しており、当院での使用状況を把握している。</p> <p>○医薬品医療機器情報配信サービス (PMDAメディナビ) を利用するなど、国内外の医薬品情報をwebより収集している。</p> <p>○医薬品安全使用に関する情報は、必要に応じて①メール配信および②セーフティマネージャー委員会にて報告している。また、その議事録を職員全員に回覧後、議事録閲覧確認票 (押印票) の回収により周知状況を把握している。</p> <p>○医薬品安全使用に関する情報は、薬剤部 薬品情報科でファイリングして整理しており、過去のメール配信記録は職員がいつでも閲覧できるようホームページ上に整理している。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>○調剤時に処方箋を確認し、処方薬剤が適応外又は併用禁忌等の使用方法に該当するか否かを把握している。</p> <p>○上記に該当する場合は薬学的知見に基づき、調剤者および監査者は、提出された文献等を参考に使用の必要性やリスク検討を加え、処方の妥当性等を確認している。</p> <p>○適応外または併用禁忌等について疑義照会した場合の照会内容は、処方箋のコピーを記録として綴り、医薬品安全管理責任者に毎月報告し、保管している。</p> <p>○必要に応じて、医師に適応外または併用禁忌等について指導を行うとともに、院内全体に未承認等の医薬品の使用に関して必要な情報共有を行っている。</p> <p>・ 担当者の指名の有無 (有・ 無)</p> <p>・ 担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部、職種：医師1名)</p> <p>(所属：薬剤部、職種：薬剤師3名)</p> <p>(所属：医療安全管理部、職種：薬剤師1名)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する</p>	

<p>規程の作成の有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容        : インフォームドコンセントマニュアルに説明と同意に関する方針、手順を定めている。説明書や同意書の新規作成、改定文書は全て医療安全管理部門で確認している。実施状況は医療説明等管理責任者が参加している診療録監査小委員会で確認している。</p>
---

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p><input type="radio"/> 診療録等の適切な管理を行うために診療録等の記載内容の確認に関すること</p> <p><input type="radio"/> 診療録等の診療録内容等の定期的な確認に関すること</p> <p><input type="radio"/> 必要の応じて行う指導に関すること</p> <p><input type="radio"/> 診療録の記載が十分でない事例などの各部署への通知および研修に関すること</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
<p>・所属職員：専従（6）名、専任（ ）名、兼任（9）名        うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名        うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名        うち看護師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p><input type="radio"/> 医療安全管理対策委員会、医療の経過検討委員会、セーフティーマネージャー委員会等医療安全管理部門の各委員会の運営と庶務に関すること。</p> <p><input type="radio"/> 医療事故や医療安全管理部が取り扱う事象が発生した場合における診療録の記録の確認、患者及び家族への説明、発生原因の究明と対応状況の確認、事象の内容から派生した事項の職員への必要な指導</p> <p><input type="radio"/> 医療に係る安全管理の連絡調整、医療安全の確保のための対策の推進、医療安全の確保に資する診療状況の把握と職員への安全意識向上の取組みとモニタリング</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。        ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）</p> <p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</p>

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無( ・無 )

・活動の主な内容:

高難度新規医療技術評価委員会に対して当該高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求めること。

当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を適否結果通知書(様式第2号)により通知すること。

当該高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること。

高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行うこと。

高難度新規医療技術の提供の適否等について決定した時及び高難度規程に定める事項の従業者の遵守状況を確認した時に、その内容について病院長に報告すること。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無( ・無 )

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無( ・無 )

#### ⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数(0件)、及び許可件数(0件)

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無( ・無 )

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無( ・無 )

・活動の主な内容:

(申請・承認した件数)

○未承認:0件

○適応外:85件

○禁忌:0件

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無( ・無 )

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無( ・無 )

#### ⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況:年719件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったも

のとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年65件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

死亡・死産報告と合併症報告の義務化について異動医師のオリエンテーション時に説明している。電子カルテのお知らせに入力についての情報を掲載している。セーフティマネージャー委員会（書面）での周知を実施している。

院内で発生した死亡情報および合併症報告を確認し、インシデントレポート報告がされていない診療科等には報告するよう督促を行うなど活動をしている。

毎月の医療安全管理対策委員会において死亡・死産報告と合併症報告の件数及び事例を報告し、必要に応じ改善策を審議している。審議結果は病院長へ報告している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：金沢医科大学病院）・~~無~~）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：金沢医科大学病院）・~~無~~）
- ・技術的助言の実施状況

新型コロナウイルス感染まん延により、日本私立医科大学協会主催の特定機能病院との相互ラウンドは、原則施設間の訪問は禁止となり、書面のみでのラウンドとなった。金沢医科大学病院と相互に書面による状況確認と質疑応答を実施した。当該施設からの技術的な指摘はなかった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談窓口の趣旨、設置場所、担当者と責任者、対応時間等は院内に掲示されており、患者窓口運用規程によって定められている。また相談者が不利益を受けないよう配慮し個室にて相談に応じている。相談内容によってはインシデントレポートによる報告が行われ、一部内容は医療安全管理対策委員会にも報告されて、対応を要する事項については委員会にて対策について検討している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、集合研修は開催せず、安全部で作成した動画をDVD配付とオンラインにて院内で公開した。6月には全職種を対象に「院内の安全ルール」をテーマとした動

画を作成した。内容は、患者確認とタイムアウト、急変時対応、アレルギー情報の取り扱いとアナフィラキシー対応、インシデント報告と苦情対応、医療安全研修、医療安全管理体制（各部門と外部監査）である。12月に「事例から学ぶ医薬品安全」、2月に「新型コロナウイルス感染と医療安全」をテーマにした動画をオンライン配信した。

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

【管理者】

○2020年度特定機能病院管理者研修（2021年2月4日）

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受信状況

○日本医療機能評価機構認定病院 平成30年4月6日認定

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

（日本医療機能評価機構ホームページにおける公開内容）

■ 改善要望事項

・機能種別 一般病院2

該当する項目はありません。

・評価を踏まえ講じた措置

・全職員を対象とした研修として、医療倫理・患者の権利・個人情報保護・接遇・ハラスメント

・保冷遵守をテーマとした研修会を開催した。また、開催通知を複数の方法で幅広く広報し、参

加者増加を目指す努力を講じた。

- ・ 医療機器、医療器具の安全使用・適正使用に関する事項を審議する組織として「医療機器安全管理サポートチーム」を医用工学部内に設置した。前回使用医療機器の取り扱いについて、原則と例外として再利用が必要な場合の申請手順、運用ルールを同サポートチームで定めた。以上についてオールユーザーメールにて配信し、また、電子カルテ内で職員が閲覧できる環境を整えた。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心身ともに健全にして人格高潔である医師</li> <li>2. 医療安全確保のために必要な資質、能力を有している者</li> <li>3. 病院の管理運営のために必要な資質、能力を有している者</li> <li>4. 関西医科大学附属病院における病院理念、基本方針、医療倫理指針を理解し、遂行することができる者</li> </ol> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法 ホームページ</li> </ul>
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法 ホームページ</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
神崎秀陽	学校法人関西医科大学 常務理事	○	常任理事会から選出された理事	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
友田幸一	関西医科大学 学長		学長	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
齋藤貴徳	関西医科大学附属病院 整形外科 診療部長		附属病院部長会から選出された 診療部長	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
藤本良知	一般社団法人枚方市医師会 会長		理事長が委嘱する学外有識者	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
川添堯彬	学校法人大阪歯科大学 理事長		理事長が委嘱する学外有識者	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	☑・無		
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 病院の運営方針に関する事</li> <li>(2) 病院の経営管理に関する事</li> <li>(3) 中期計画及び事業計画に関する事</li> <li>(4) 医療機能に関する事</li> <li>(5) 組織に関する事</li> <li>(6) 人事に関する事</li> <li>(7) 施設整備に関する事</li> <li>(8) 予算及び決算に関する事</li> <li>(9) 高難度新規医療技術の実施に関する事</li> <li>(10) 未承認の医薬品等の使用に関する事</li> <li>(11) 職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制の整備に関する事</li> <li>(12) その他、病院の運営全般に関する事</li> </ol> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>毎月1回(毎月第4火曜日午後4時から)開催の附属病院部科長会に報告し了承を得たうえで、職員に周知しています。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無( 有・☑ )</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無( 有・☑ )</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
松田 公志	○	医師	病院長
谷川 昇		医師	副病院長
齋藤 貴徳		医師	副病院長
金子 一成		医師	副病院長
藤原 宏司		事務	事務部長
島村 里香		看護師	看護部長
村中 達也		薬剤師	薬剤部副部長
仲野 俊成		医師	医療情報部副部長
山本 和彦		事務	医事課長
川江 寛信		事務	医事課長
森本 圭祐		事務	診療情報分析室次長
大西 良和		事務	用度課長
船原 宏通		事務	管理課長
塚本 雄大		事務	管理課長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・）
  - ・ 公表の方法
  - ・ 規程の主な内容
    - 病院管理者として必要な人事及び予算執行権限について規定している。
    - ・ 規程の名称：附属病院組織分掌規則
    - ・ 条文：第3条 病院長は、病院管理者として当該病院の管理運営を掌理し、これに必要な人事及び予算執行権限を有する。
  - ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
    - 副病院長：医療安全に関すること
    - 副病院長：救急体制、手術運営に関すること
    - 副病院長：患者サービスに関すること
    - 事務部長：経営分析に関すること
    - 看護部長：看護に関すること
    - 薬剤部副部長：薬剤に関すること
    - 医療情報部副部長：医療情報に関すること
  - ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
    - <看護部長>
      - ・ 社団法人日本私立医科大学協会主催の看護部長会議
    - <薬剤部副部長>
      - ・ 社団法人日本私立医科大学協会主催の薬剤部長会議
    - <事務部長>
      - ・ 社団法人日本私立医科大学協会主催の事務部長会議
    - <医事課長>
      - ・ 社団法人日本私立医科大学協会主催の医療事務研究会
    - <管理課長>
      - ・ 社団法人日本私立医科大学協会主催の病院庶務研究会
- なお、院内においては月1回経営会議を開催し、各科の診療成績や予算に対する収支状況について情報共有を行っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					有・無
<p>・監査委員会の開催状況:年1回</p> <p>・活動の主な内容:</p> <p>(1) 附属病院の医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理対策委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務状況について管理者から報告</p> <p>(2) (1)の報告内容に関して是正措置を講ずる必要があるかどうかの意見収集</p> <p>(3) (1)、(2)の結果公表</p> <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無(有・無)</p> <p>・委員名簿の公表の有無(有・無)</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無(有・無)</p> <p>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無(有・無)</p> <p>・公表の方法:</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由(注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
藤本 良知	枚方市医師会 名誉会長	○	地域医療に関する 学識経験者	有・無	1
森田 眞照	市立ひらかた 病院 顧問		病院機能に関する 学識経験者	有・無	1
永井 仁美	茨木保健所 所長		公衆衛生に関する 学識経験者	有・無	1
吉野 敬昌	枚方信用金庫 理事長		医療を受ける側 の 代表者	有・無	2
谷川 昇	関西医科大学 医学部放射線 科学講座教授		医療に関する 学識経験者	有・無	1
蔦 幸治	関西医科大学 臨床病理学講 座教授		臨床病理に 関する学識経験 者	有・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

通常は年4回のテーマを決めた内部監査を行っています。また、内部通報窓口となっているため、管理者の業務に関する通報があれば、対応できる体制になっています。

・ 専門部署の設置の有無 (  有 ・  無 )

・ 内部規程の整備の有無 (  有 ・  無 )

・ 内部規程の公表の有無 ( 有 ・  無 )

・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

- ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況  
常任理事会で審議した内容を理事会へ報告し、理事会では問題の有無を理事である管理者にも確認し、監督しています。
- ・ 会議体の実施状況（ 年9回 ）
- ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（  ・ 無 ）（ 年9回 ）
- ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・  ）
- ・ 公表の方法

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年 0 件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法</li></ul> <p>○職員更衣室の前に学内意見箱を設置し、案内を常時掲示しています。</p>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	④・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期	
○国際標準化機構 (ISO15189) 平成25年8月15日認定 ※臨床検査部内のみ	
○日本医療機能評価機構認定病院 平成30年4月6日認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	④・無
・情報発信の方法、内容等の概要	
【発信方法】 当院ホームページ	
【内容の概要】 医療圏における基幹病院の一つとして最先端医療、高度医療をおこなっており、患者さんが安心できる安全で最新の医療の提供に努め、全ての人に平等で開かれた大学病院としての社会的責務を果たしている。	
また、災害拠点病院・がん診療連携拠点病院・高度救命救急センターの指定を受けており、診療の多様化にも対応し、広く地域医療機関との連携を図り医療圏全体の充実に貢献している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	④・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	

センター化を推進し、診療科や部門との枠組みを超えてチーム医療を実施している。

○がんセンター：化学療法部門と緩和ケア部門を担当しており、関連する診療科で協力し、より効率的で質の高いがん治療を提供している。

○ハートセンター：循環器内科・心臓血管外科が連携して循環器疾患の治療に当たっている。

○内視鏡センター：消化器肝臓内科、消化管外科、呼吸器内科、呼吸器外科および関連診療科が協力して、消化器及び呼吸器に関連する内視鏡治療を積極的に行っている。

○脳卒中センター：脳神経外科、神経内科、救急医学科、リハビリテーション科及び関連診療科が協力して超急性期に対する最新かつ質の高い脳卒中治療を提供している。

○腎センター：腎臓内科、腎泌尿器外科、糖尿病科の医師以外に健康科学センター、看護師、管理栄養士、薬剤師が連携し、「全人的」な診療や支援を提供している。

○難病センター：各診療科の指定難病登録医、看護師を始めとしたメディカルスタッフ、ソーシャルワーカーなどが協力して難病診療に対応している。